姫に心を捧げた騎士^{ナイト}

作詞 J'Soul (浅羽一)

人より何が優れているかって 僕には胸を張って言えるものなんてなかった
人より何が劣っているかって 僕にはちゃんと認められるものなんてなかった
理想の姿を仮面に宿して 理想の光を周りに求めて

誰も彼もが人生という舞台の上で 自分が演じる役柄を気取った
たった一つだけ世界という劇場の中に 無限の芝居が毎日を作る
台本は白紙 役名は自由

主役を決める選考基準は 『舞台』に込めた自信と情熱

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 王子様は僕じゃなくて良い

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 綺麗な君^{きれい}…お姫様を守る

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 王子様は僕じゃなくて良い

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 命を賭けてお姫様を守る…騎士に

世界の何処^{どこ}に愛があるかなんて 舞台の上に立つ演者^{えんじや}の誰にも分からない
本当の愛がどんなものかなんて 舞台を眺めてる観客もきっと知りはしない
使い古された言葉を並べて お決まりの手順を繰り返している

真っ白なチケットの半券を誰かが落とし 何かが日時と演目を記した
微笑^{あいさつ}みを貼り付けたモギリと挨拶^{あいさつ}を交わし 客のふりをした運命^{らいめん}が来観
公演は一度 練習日はなし

スポットライトを浴びた主役と カーテンコールで抱き合うお姫様

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 王子様は僕じゃなくて良い

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 幸せな笑顔の君を守る

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 王子様は僕じゃなくて良い

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 全てを捧げお姫様を守る…騎士に

お城の代わりに狭いアパート^{つるぎ} 剣の代わりにバラの花束

白馬の代わりに小さい車 ドレスの代わりに安いジーンズ

宝石を散りばめた王冠の代わりに とても儂いダイヤの指輪しか

僕にあげられるものはないけど

財宝と呼べるものはないけど

■繰り返し

●繰り返し

僕は騎士^{ナイト}になりたかった 君を守る騎士^{ナイト}になりたかった